

# 平成18年 国民健康・栄養調査結果の概要について

## 生活習慣病有病者の状況について

(1) 糖尿病が強く疑われる人は約820万人。糖尿病の可能性が否定できない人は約1,050万人、合わせて約1,870万人と推定される (p. 29)

▼「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」の判定基準▼

- ①「糖尿病が強く疑われる人」とは、ヘモグロビンA1cの値が6.1%以上、または、質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人。
- ②「糖尿病の可能性を否定できない人」とは、ヘモグロビンA1cの値が5.6%以上、6.1%未満で、①以外の人。

(参考) (平成14年糖尿病実態調査)

糖尿病が強く疑われる人 約740万人  
糖尿病の可能性が否定できない人との合計 約1,620万人

(2) 高血圧症有病者は約3,970万人。正常高値血圧者は約1,520万人、合わせて約5,490万人と推定される (p. 31)

▼「高血圧症有病者」、「正常高値血圧者」の判定基準▼

- ・高血圧症有病者：収縮期血圧140mmHg以上、または拡張期血圧90mmHg以上、または血圧を下げる薬を服用している者。
- ・正常高値血圧者：収縮期血圧130mmHg以上140mmHg未満で、かつ拡張期血圧90mmHg未満の者または、収縮期血圧が140mmHg未満で、かつ拡張期血圧が85mmHg以上90mmHg未満の者(ただし、薬を服用していない者)。

(注) 高血圧のレベル及び背景要因等を考慮の上、生活習慣指導や薬物治療等が行われる。

## メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の状況について

40~74歳で見ると、男性の2人に1人、女性の5人に1人が、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)が強く疑われる者又は予備群と考えられる者 (p. 34)

40~74歳で見ると、強く疑われる者の比率は、男性24.4%、女性12.1%、予備群と考えられる者の比率は、男性27.1%、女性8.2%であり、40~74歳男性の2人に1人、女性の5人に1人が、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)が強く疑われる者又は予備群と考えられる者であった。

## 身体活動・運動の状況について

(1) 運動に関する意識では、男性の20~39歳及び70歳以上と女性の15~29歳及び70歳以上では、「実行していないし、実行しようとも考えていない」者が3割以上 (p. 10)

(2) 日常生活で体を動かすことを、「実行していない」者は、男性の20~50歳代、女性の20~40歳代で4割以上 (p. 14)

注)「実行していない」は、「実行していないし、実行しようとも考えていない」「実行していないが、実行しようと考えている」と回答した者。

## 食習慣の状況について

(1) 朝食の欠食率を年次推移で見ると、男女共に高くなる傾向 (p. 20)

朝食の欠食率は、男女共に20歳代で最も高く、男性30.6%、女性22.5%であり、30歳代以降は、年齢が高くなるに従い、低くなっていた。

(2) 夕食の開始時間は、男女共に20~60歳代において、午後9時以降に食べる者の割合が増加 (p. 21)

夕食の開始時間については、男性では、20歳代~60歳代において、午後9時以降に食べる者の割合が増加していた。特に、平成18年は、男性の30歳代、40歳代においては、午後11時以降の者が7.0%以上であった。